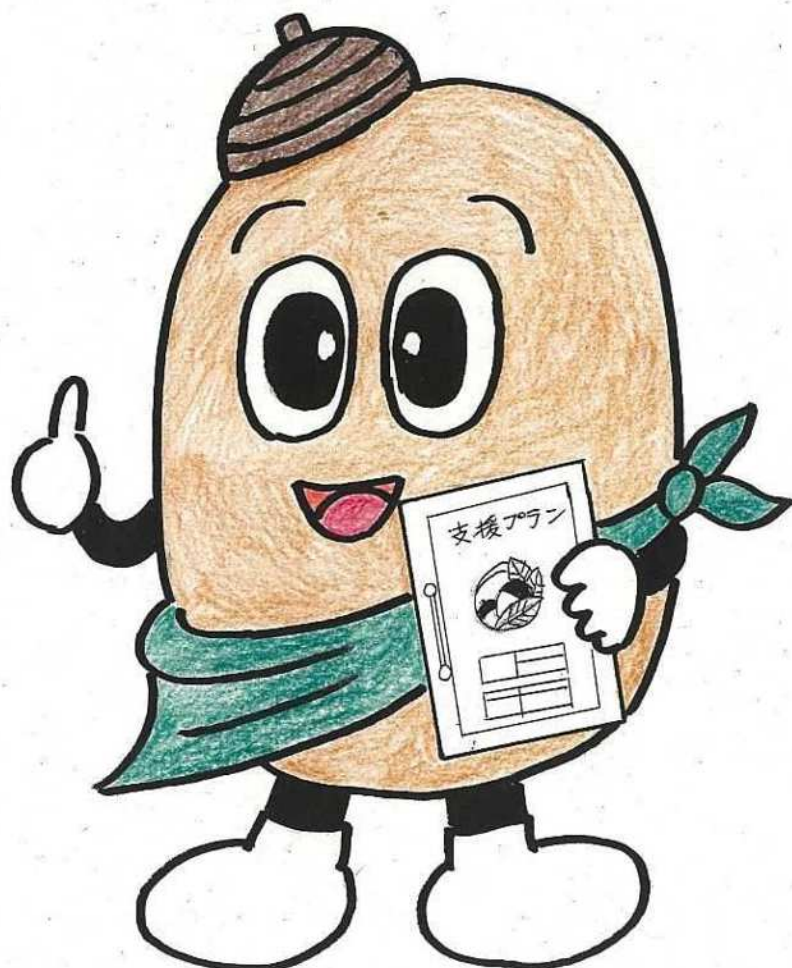


教育支援プラン 作成の手引き



埼玉県立上尾かしの木特別支援学校

はじめに

1 教育支援プランA・Bの概要

(1) 「教育支援プラン」とは

埼玉県では「個別の教育支援計画」の中に「個別の指導計画」の機能を取り込み、総論・各論的又は長期・短期的な観点からお互いの機能を補完するような総合的な計画として、「教育支援プランA・B」を作成しています。

(2) 「教育支援プランA(個別の教育支援計画)」とは

児童生徒一人一人のニーズを把握し、長期的な視点で、**乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫した的確な支援を行うことを目的として作成される計画**です。作成にあたっては、児童生徒とその保護者を中心に、教育のみならず、医療、福祉、労働等の関係機関の連携協が必要です。3年を1サイクルとして作成します。

(3) 「教育支援プランB(個別の指導計画)」とは

児童生徒の一人一人の教育的ニーズを、**具体的な指導・支援に反映させるための計画**です。本人や保護者の願い、子どもの障害の状態、ねらいなどに応じた、**きめ細やかな指導・支援を行うために**、指導目標・内容・支援の方法等を盛り込み、1年を1サイクルとして学校で作成します。

(4) 保護者との連携

教育支援プランは、保護者との面談や日常的な情報交換を通して、保護者の意見を十分に聴きながら作成・評価をします。また、個人情報保護の観点から、保護者が記載を望まない情報は記入しません。

関係機関との連携等で校外に持ち出す際は、保護者に了解をとり、「重要な文章等の持ち出し(入手)等管理台帳」に記入します。

2 手引の作成にあたって

児童生徒は、年度が変わるたびに、支援者が替わります。しかし、支援者が替わっても、有効な支援方法が引き継がれ、指導・支援の継続を図っていくことが、子供達の成長に欠かせません。切れ目のない、一貫した支援を継続的に行うためには、どのようにすればよいでしょうか。

教育支援プランは、学校卒業後までを通じて、一貫した的確な支援を行うことを目的として作成されます。また、今までの支援者が気づいた有効な支援方法等がつまっています。教育課程委員会では、この教育支援プランを充実させることが、子供達に切れ目のない一貫した支援を継続的に行うために必要であると考えました。

しかし、本校は毎年多くの教員が赴任しています。中には、新採用の先生など、初めて支援プランを作成する人もいます。ベテランの教員の中にも、支援プランの作成に自信のない人がいるかもしれません。教育課程委員会でも、「支援プランの書き方が分からない」「支援プランを書く自信がない」といった意見が上げられました。

そこで、令和3年10月、教育支援プランをより良いものにしていくことを目的とし、教育課程委員会の内部組織として、「教育支援プランを考える会」が発足されました。そして、令和4年度を通して、教育支援プランの『記入例』『記入方法』『記入の際の考え方』等をまとめた手引の作成に取り組みました。

かしの木では……

「全ての先生が、同じ視点でしっかり支援プランを作成しています。と自信をもって言いたい！」

「初めて支援プランを作成する先生も、迷いなく同じ視点で作成してほしい！」

「担任が変わっても、一貫した支援プランで、一貫した指導・支援ができるようにしたい！」

本手引きが、本校教員のこのような願いを解決する一助になればと思います。

教育支援プラン A・B 作成 1年間の流れ

| 月 | 内容 | プラン A 個別の教育支援計画 | プラン B 個別の指導計画 |
|-----------|---------------------|--|--|
| 4 | プラン A・B 作成 | ○1年生・新入生: 就学前施設、前籍校からの資料を参考に作成 ○在校生・内部進学生: 前年度からの変更点を確認し作成 ・プロフィールシート (教育歴・検査・関係機関に関する情報・通学・医療・健康管理・生育歴) ・支援シート(教育機関の支援) | ・指導方針 ・指導に結び付く実態 ・個別の指導計画(各教科等) |
| | 個別面談 | ○プラン A・B について内容説明・同意の確認する ・本人・保護者の願い ・合理的配慮の実施内容 | ・指導方針 ・指導に結び付く実態 ・前期の指導内容 |
| | | 【賢者】 作成履歴を必ず更新する。 ※作成履歴更新の仕方 | |
| 5 | 管理職提出 | ○教育支援プラン A・B 前期(目標入り)管理職提出 | |
| 6 | 保護者配付 | ○教育支援プラン A・B 前期(目標入り、表紙なし)保護者配付 | |
| ※ 随時 | 評価・加筆・修正 | ※必要に応じてプロフィールシート加筆・修正 | ・前期評価作成 ・指導に結び付く実態加筆・修正 |
| 7 8 | | | ・後期「学習目標」「指導内容・方法(手だて)」検討 |
| 9 | 管理職提出 | 教育支援プラン A・B 前期(評価入り)管理職提出 | |
| | 前期終了式/保護者配付 | 教育支援プラン A・B 前期(評価入り、表紙付)保護者配付 | |
| 10 | 後期始業式 プラン A・B 更新 | ○教育支援プラン A・B について確認する。 ※後期個別面談が終わり次第、保護者から回収 | |
| | 個別面談 | 変更点の確認 | ・指導に結び付く実態加筆・修正 ・後期「学習目標」「指導内容・方法(手だて)」検討 |
| | | | 【賢者】 作成履歴を必ず更新する。 |
| | 管理職提出 | ○教育支援プラン B 後期(目標入り)管理職提出 | |
| | 保護者配付 | ○教育支援プラン B 後期(目標入り、表紙なし)保護者配付 | |
| 11・ 12 | | ※必要に応じてプロフィールシート加筆・修正 | ・後期評価作成 ・指導に結び付く実態加筆・修正 |
| 1 | | ○教育支援プラン A・B 作成 ・A・B の評価/実態・ねらいの見直し/次年度への課題 | |
| 2 | 個別面談 | ○教育支援プラン A・B について確認する。 | |
| | | ・加筆・変更点について ・「所属校」の評価確認 ・本人・保護者の願い、合理的配慮の確認 | 評価についての説明と次年度への課題について ・指導に結び付く実態に関する加筆・変更について確認 |
| | | 【賢者】 作成履歴を必ず更新する。 | |
| 3 | 管理職提出 | ○教育支援プラン A・B 後期期(評価入り)管理職提出 ※高3、小6・中3、その他で締め切り日が異なるので注意 | |
| | 保護者配付 | 教育支援プラン A・B 前期/後期(評価入り、表紙付)保護者配付 ※高3・中3・小6 卒業式 その他学年: 修了式 | |

教育支援プランA（個別の教育支援計画） 作成例

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校

| | | | | | |
|-------|--|-------|----------|-------|----------------|
| 氏名 | かしのき はなこ | 性別 | 女 | 住所 | 埼玉県上尾市平塚1281-1 |
| | かしのき 花子 | 月日 | H19.6.17 | | |
| 保護者氏名 | かしのき たろう | 続柄 | 父 | 電話番号 | 048-776-4601 |
| | かしのき 太郎 | | | | |
| 対象期間 | 令和○年4月8日（中学部1年）から令和◎年3月31日（中学部3年）まで3年間 | | | | |
| 作成年度 | 学校名 | 校長名 | 学部・学年・組 | 記入者名 | |
| 令和2年度 | 上尾かしの木特別支援学校 | ○○ ○○ | 中学部1年○組 | □□ □□ | |
| 令和3年度 | 上尾かしの木特別支援学校 | ◎◎ ◎◎ | 中学部2年◎組 | □□ □□ | |
| 令和4年度 | 上尾かしの木特別支援学校 | ◎◎ ◎◎ | 中学部3年○組 | □□ □□ | |

| | |
|------------|---|
| 特別な教育的ニーズ | ①行事前など日課の変化で不安定になり、食欲不振や給食時のマナーを守れなかったり、嘔吐したりする。従って、家庭・医療と連携し、頓服薬を適切に活用して気持ちの安定を図る。 ②基本動作はほぼ自立しているが、不安定時は確認行動が増える。従って、言葉や視覚支援で活動内容を確認し、見通しをもって取り組めるようにする。 ③要求が通らないと意思疎通が難しくなり、自傷・他傷に至ることがある。従って、短い言葉で気持ちに寄り添い、楽しみを伝えて落ち着けるよう支援する。 |
| 本人・保護者の願い | ・少しの時間、我慢をすることができる。 ・周囲の状況を見て動けるようになる。 |
| 合理的配慮の実施内容 | ・気持ちを安定させて活動できるように、パーテーション等による環境設定を行ったり、視覚的に見通しがもてる支援具を用いたりする。 ・行事等日常と異なる活動の際は、事前に十分な見通しがもてるように伝える。活動中も必要に応じて活動予定を本人に分かるように視覚的な支援具で伝え、落ち着いて取り組めるようにする。 |

| 教育機関の支援 | 目標・機関名 | 支援内容 | 評価 | |
|---------|---|--|--|--|
| | <所属校> ①相手の要求や苦手な活動などを受け入れ、落ち着いて学校生活を送れるようにする。 ②見通しをもち、友達と一緒に活動できるようにする。 | ①日課表や言葉で活動の流れを本人と確認し、好きな活動などを励みに見通しをもって学校生活を送ることができるようになる。安心できること言葉かけを行うとともに、必要な時は、時頓服薬を使用する。 ②視覚的な支援や言葉かけを用いて、見通しを持つことができるように支援する。 | ①気持ちが不安定になってしまったときも、日程確認を繰り返し行うことで、気持ちを立て直すことができた。 ②教室移動の場所を事前に伝えたり、場面に合ったタイミングで言葉かけをしたりすることで、落ち着いて活動することができた。（R2. 3） | |
| | <所属校> 上記内容と同じ。 | 上記内容と同じ。 | ①相手の要求や苦手な活動に対して、イラストカードを活用する等活動に対して、見通しを持つことで、落ち着いて学校生活を過ごすことができた。 ②日課表の提示や言葉かけを受けて、見通しをもつことができ、友達と一緒に活動することができた。（R3. 3） | |
| | <就学支援委員会の助言> さいたま市教育委員会 | 知的障害の特別支援学校が望ましい。 | | |
| | <支援先、交流及び共同学習> さいたま市○○中学校 | 交流校の朝の会と体育の授業に参加する。年2回実施。 | 活動の事前学習をしたり、言葉かけの支援をしたりすることで、活動に気持ちを向け、友達と関わりながら楽しく交流できた。 | |

| 関係機関の支援 | 関係機関名 | 支援の内奥 |
|---------|------------------------------------|---------------------------------|
| | <医療・保健> ・○○○○医療センター | ・1～2ヶ月に1回通院（○○医師 月・木 ※通常診察は母のみ） |
| | <福祉・労働・デイサービス等> ・○○○○ | ・火、水、木（R3. 5～） |
| | <家庭・地域・習い事等> ・太鼓サークル ・サッカー教室 | ・土（R2. 4～） ・日（R2. 9～）1回 |

本人のプロフィール

| | | | |
|-----------------|--|--|---------------|
| 障がいの状況等 | (主障がい) 知的障害 (診断名) 自閉スペクトラム症 (備考) (資料) 無 | | |
| 生育歴・療育歴 | ・1歳半頃まで順調だったが、徐々に言葉や指差しが減った。 | | |
| 教育歴 (就学前～現在) | 保育所・幼稚園・学校名等 | 在籍期間 | 学部・学年・支援学級在籍等 |
| | 療育センター○○ | H22年4月～H23年3月 | |
| | ○○幼稚園 | H23年4月～H25年3月 | |
| | さいたま市立○○小学校 | H25年4月～R2年3月 | 知的障害学級（H27年～） |
| | 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校 中学部 | R2年4月～ | |
| 相談歴・諸検査 | (1) | (検査日) H28年8月 (検査機関) ○○○○クリニック (検査名) KIDS (結果) KIDS (CA6:3) DQ (2:6) (備考) (資料) 無 | |
| | (2) | (検査日) R2年7月 (検査機関) ○○○○クリニック (検査名) 新版K式発達検査 (結果) 新版K式 全DQ30、認知適応30、言語社会22 (備考) (資料) 無 | |
| その他 | | | |

※紙面にのせる例として、サイズを調整しています。実際の「賢者」では欄の高さ・幅や行間が異なります。

左ページの解説

《 特別な教育的ニーズ 》

【特別な教育的ニーズ ポイント 注意点】

- 特別な教育的ニーズは、「本人のニーズ」「本人の困難さ」「本人が困っていること」を記す。
どのような「特別な指導内容」や「特別な教育的支援」が必要かを整理し、「特別な教育的ニーズ」としてまとめる。
- 特別な教育的ニーズは、1年の途中であっても、変化した場合は、随時、更新していく。
年度初めの、プラン保護者配付時には、前年度の更新履歴を確認する。

【特別な教育的ニーズ 記入方法】

- 現在の状況 ⇒ 必要な支援 ⇒ 必要な配慮(本人の環境・特性・得意分野等を考慮) の順で記入する(県教育委員会より)。
- 「主語と述語」「始めと終わり」の整合性を合わせ、読む人に分かりやすいように、短い文章で切って作成する。
- 本校では、全ての教員が同じ様式で記入できるように、また、短く理解しやすい文章となるように記入する。
- 字数制限があるため、簡潔にまとめる。(全角49文字×6行まで)

【特別な教育的ニーズ 文章例】

- ①自分の気持ちや要求の表出を苦手とするが、少しずつ簡単な言葉で伝えようとする様子が増えた。←【状況】従って、一語文や二語文でのやりとりを促す場面を意図的に多く設定する。←【必要な支援・配慮】
- ②活動に見通しがもてないと、気持ち不安定になる。←【状況】従って、「視覚的な提示」「活動の始まりと終わりをタイマー等で提示」などにより、←【支援】見通しをもてるようにする。←【配慮】

《 合理的配慮の実施内容 》

【合理的配慮 とは】

- 合理的配慮・・・「障害のある児童生徒に平等な学習を保障するための 必要かつ適当な変更及び調整」。
- 子供の困難さに応じて、個別に、必要かつ適当な変更・調整を行う。

【合理的配慮 設定手順と方法】

1. 本人や保護者からの、必要な配慮に関する意思表示
2. 学校がどんな配慮ができるか検討(本人中心に、本人の学習を保障するための方法を考える)
3. どんな場面でどんな配慮ができるか、お互いの合意形成
4. 配慮を実施後の、見直し・改善

【合理的配慮 ポイント】

- 合理的配慮は、保護者や本人との「合意形成」に基づいて実施する。
- 保護者からの意思表示が出発点だが、合理的配慮は保護者の意思を解決するための内容をそのまま記すものではない。
あくまでも、「子供本人の困難さ」に応じて、個別に、必要かつ適当な変更・調整を検討する。
- 本人や保護者からの意思表示がない場合にも、本人の学習を妨げている環境がある場合は、変更や調整について提案する。
- 合理的配慮は過度の負担にならない範囲で行うもの。ただし、その負担の範囲は担任だけで決めることのないようにする。
負担が大きい場合には、代替案の合理的配慮を提案し、双方が対話をして合意形成を図っていくことが大切となる。

【合理的配慮 記入例】

- ◎「〇〇できるように(困難さの解決) 〇〇を行う(具体的な変更や調整)」と記す。
「丁寧な支援を行う」「環境を整える」などの抽象的な表現はせず、具体的な表現にして記す。
- ・予定や活動内容が分かるように、言葉に加えて視覚的な支援具を活用して伝える。
- ・活動内容が分かるように、指示をする際は、一つずつ、短い言葉で簡潔に伝える。

《 教育機関の支援 》

【教育機関の支援<所属校>注意点】

- 字数制限があるため、簡潔にまとめる。
支援シート(教育機関の支援)から所属校の項目を追加し、3年間分評価する。
- ※追記した場合は、年月を記入。

《 関係機関の支援 》

【関係機関の注意点】

- 字数制限があるため、簡潔にまとめる。
- <医療・保健>について
通院の頻度や支援内容を記入する。

個別の教育支援計画 例

プロフィールシート

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校

| | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--------------|-----------|--------------------------|---------------|--------|-----------|---------------|----------|---|--|--|
| 学部 | | | | 年・組 | | | | 作成年月日 | | | |
| 作成者 | | | | | | | 学校長名 | | | | |
| 氏名 | | | | 性別 | | | | 本人住所 | | | |
| | | | | 生年月日 | | | | | | | |
| 保護者氏名 | | | | 続柄 | | | | 保護者住所 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 自宅 | 電話番号 | 備考 | | | | | | E-mail | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 電話番号 | | | | | | E-mail | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 急用連絡先1 | 電話番号 | 備考 | | | | | | 名称・氏名・続柄 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 急用連絡先2 | | | | | | | | | | | |
| 学びの場 | | | | | | | | | | | |
| 障がい の状態等 | 主障がい | 知的障害 | | | | | | | | | |
| | 診断名 | 自症スペクトラム症 | | | | | | | | | |
| | 備考 | | | | | | | 資料 | 無 | | |
| 障害者手帳 | 療育手帳 | ① | | | 交付日 | R3年11月 | | | | | |
| | 身体障害者手帳 | 級 | 種 | 交付日 | 次回認定なし | | | | | | |
| | 精神障害者保健福祉手帳 | | | | 交付日 | | | | | | |
| 受給者証 | 種類 | | | | | | | | | | |
| 教育歴 (就学前～現在) | 保育所・幼稚園・学校名等 | | | 在籍期間 | | | 学部・学年・支援学級在籍等 | | | | |
| | 療育センター | | | H22年4月～H23年3月 | | | | | | | |
| | 〇〇幼稚園 | | | H23年4月～H25年3月 | | | | | | | |
| | 〇〇市立〇〇小学校 | | | H25年4月～R2年3月 | | | H28年度から知的障害学級 | | | | |
| 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校 中学部 | | | R2年4月～ | | | | | | | | |
| 相談歴・諸検査 | (1) | 検査日 | H28年8月 | | 検査機関 | 〇〇〇〇クリニック | | | | | |
| | | 検査名 | KIDS | | | | | | | | |
| | | 結果 | KIDS (CA6:3) DQ (2:6) | | | 資料 | 無 | | | | |
| | (2) | 検査日 | R2年7年 | | 検査機関 | 〇〇〇〇クリニック | | | | | |
| | | 検査名 | 新版K式発達検査 | | | | | | | | |
| | | 結果 | 新版K式 全DQ30、認知適応30、言語社会22 | | | 資料 | 無 | | | | |
| 備考 | | | | | | | 資料 | 無 | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | |

医療福祉情報

| | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---------|---------------------------------|------------|-------------|--------------|-------|-------|----|------|-----|
| 学部 | | | | 年・組 | | | | 作成年月日 | | | |
| 作成者 | | | | | | | 学校長名 | | | | |
| 氏名 | | | | 性別 | | | | 生年月日 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 家族構成 | 氏名 | 続柄 | 備考 | 氏名 | 続柄 | 備考 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 通学方法 | 主な方法 | | | 備考 | | | | | | | |
| | 登校 | スクールバス | | | | | | | | | |
| 校区 | 小学校 | | | | 中学校 | さいたま市〇〇〇〇中学校 | | | | | |
| 災害時避難場所 | 避難場所 | | | | | | | | | | |
| | 留意事項 | | | | | | | | | | |
| 医療 | 診療科 | | | 医療機関名 | | | 担当医師 | | | | |
| | 内科 | | | 〇〇〇〇医療センター | | | 〇〇 〇〇 | | | | |
| 訓練期間 (施設名、 訓練内容、 実施日(曜日)、 担当者等) | 上尾の森診療所 | | | | | | | | | | |
| 健康管理 | 服薬 | 薬品名 | 病名・症状 | | | 服用状況・留意点 | | | | | |
| | | ベルソムラ錠 | | | | 1日1回就寝前に飲む。 | | | | | |
| | リボトリール細粒 | | | | 1日1回就寝前に飲む。 | | | | | | |
| | 医療的ケア | ケアの種類 | | | 学校 | 家庭病院 | 事業所 | ケアの種類 | 学校 | 家庭病院 | 事業所 |
| | | | | | | | | | | | |
| | 食物アレルギー | 除去食品 | ごま、ピーナッツ類 | | | | | | | | |
| | | 対応 | 食器・調理器具を分ける。 | | | | | | | | |
| その他のアレルギー | | | | | | | 対応 | | | | |
| 発作 | 有 | 発作の状態 | てんかん発作 | | | | | | | | |
| | | 頻度や発症傾向 | 半年に1回程度起こる。強いストレスや疲労があると起こりやすい。 | | | | | | | | |
| | | 発作時の対応 | 痙攣が5分以上続く場合、救急要請。 | | | | | | | | |
| 配慮事項 | ・花粉症の症状が強く、2月～4月の間は、鼻水や体調を崩しやすい。 | | | | | | | | | | |
| 生育歴・療育歴 | ・1歳半頃まで順調だったが、徐々に言葉や指差しが減った。 | | | | | | | | | | |

《 プロフィールシート 》

【プロフィールシートの注意点】

○＜作成履歴＞について

保護者に教育支援プランを配付する前に、必ず【作成履歴】を更新する。

○＜障がいの状態等＞について

(主障がい)の欄は、「知的障害」と記入し、(診断名)の欄に、障害名を記入する。

(手帳の取得状況)の欄は、各生徒の療育手帳と交付日を記入する。

※療育手帳が㊦の生徒は□を選択する。印刷画面では、㊦と表記される。

○＜教育歴(就学前～現在)＞について

これまで在籍した保育所・幼稚園・学校名また就学前の療育施設等を記入する。

○＜検査＞について

これまでに受けた検査を記入する。

＜関係機関に関する情報＞について

これまで受けた訓練期間について、施設名、訓練内容、実施日、担当者等を記入する。

○＜通学・支援籍＞について

全児童生徒、通学方法を選択、記入する。

支援籍、交流及び共同学習を実施している児童生徒は、「校区」から実施校を検索・選択・入力し、☑を入れる。

※該当生徒以外は、未記入になる。

○＜医療＞について

現在通っている、診療所、診療機関、担当医師を記入する。

○＜訓練期間＞について

＜関係機関に関する情報＞と記入内容が重複するため、記入しない

○＜健康管理＞について

服薬の情報、医療ケア、アレルギー、発作、その他配慮事項について記入する。

年度途中で、各項目が変更された場合は、随時項目を追加し、更新していく。

○＜生育歴＞について

＜教育歴＞以外の記入事項を記入する。

教育支援プラン B（個別の指導計画） 例

| | | | | | |
|----|---------|-----|------|-----|------------------|
| 学部 | 中学部 | 年・組 | 3年〇組 | 作成者 | □□ □□ |
| 氏名 | かしの木 花子 | | | 学校名 | 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校 |

| | |
|------------------------------|--|
| 指導方針 | <p>現在、見通しがもてなかったり自分の要求が通らなかったりする場面で、言葉で意思の疎通を図ることが難しく、自傷あるいは他傷行為をすることがある状況である。</p> <p>従って、本人の気持ちに寄り添いつつ楽しみにできることを伝えたり、視覚的な教具や端的な言葉で支援を行ったりすることで、活動に見通しをもてるように配慮しながら、自分の気持ちを調整する力が伸びるように指導する。</p> |
| 指導に結びつく実態 | |
| 健康の保持 （日常生活面、健康面など） | <p>【着替え】前後を間違えることもあるがほぼ一人で行える。言葉かけによって裏返しを直してたたむことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で着替えに行き、教室に戻ることができるようになった。（R4. 3） <p>【食事】苦手なものは、細かく刻んだり励ましたりすると、少量食べられることがある。</p> <p>【排泄】概ね一人で行える。トイレトペーパーの使用分量、排泄後の拭き方、生理時の処理については、教員の支援が必要である。</p> <p>【健康上の配慮】乾燥する時期や寒い時期に、喘息の咳がでる。行事前などに不安定になると、睡眠リズムが崩れる傾向がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での夕食後、2分間のけいれん発作があった。その後の発作はなく、経過観察中である。（R4. 3） |
| 心理的な安定 （情緒面、状況の理解など） | <p>【苦手な状況】予定の変更などの見通しのもてない場面で、自分の思い通りの活動ができないと気持ちが不安定になり、頭部や足を机や壁、床等に強打する自傷行為が見られる。事前に視覚的な支援具を用いて見通しを十分にもたせたり、気持ちが不安定になりかけた時に別室で休憩したりすると、落ち着いて行動できることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてない場面でも、次の行う活動のカードを提示すると、落ち着いて待つことのできる場面が増えた。（R4. 3） |
| 人間関係の形成 （人のかかわり、集団への参加など） | <p>【大人や友達との関わり】自ら大人や友達と関わることは少ないが、大人や友達に誘われると、一緒に行動できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に席に着くように促すなど、自分から友達に関わる様子が見られるようになった。（R4. 3） <p>【集団参加】言葉による一斉指示で行動することは難しいが、集団の動きを見て同じ動きをしたり、同じ場所に移動したりすることができる。</p> |
| 環境の把握 （感覚の活用、認知面、学習面など） | <p>【学習の様子】平仮名や片仮名を読んだり書いたりできる。20までの数字を読むことができる。3までの数字と具体物を合わせるすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や曲に合わせて、リズムよく体を動かすことができる。 ・簡単な見本を見て同じように製作することができる。 ・曜日の漢字を正しい書き順で描くことができる。（R4. 3） |
| 身体の動き （運動・動作、作業面など） | <p>【身体の動き】階段は、手すりにつかまらずに一人で昇降する。片足立ちで数秒間保ったり、ケンケンを一人でしたりできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持久力がつき、5分程度の時間、走り続けられるようになった。（R4. 3） <p>【手指の動き】手先が器用で、曲線に沿ってハサミで切ることができる。</p> |
| コミュニケーション （意志の伝達、言語の形成など） | <p>【コミュニケーションの理解】頼まれたものを取ってくる、元の場所に片付ける、雑巾を干すなど、日頃行っている事柄については、言葉の指示を理解して概ね行動することができる。</p> <p>【コミュニケーションの表出】「たのしい」、「ください」など、自分の気持ちを簡単な言葉で表現できる。帰りの会の感想発表では、1日の出来事を視覚的なカードを用いて支援すると、2～3語文で発表できる。</p> |
| その他（性格、行動特徴、興味関心など） | <p>【学習の様子】食べ物に興味があり、好きな食べ物を教員に繰り返し言葉で伝えることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽が好きで、不安なときに好みの曲を聞いて落ち着けることがある。 ・目や額を叩きつける自己刺激をして怪我をすることがある。 |

※紙面にのせる例として、サイズを調整しています。実際の「賢者」では欄の高さ・幅や行間が異なります。

左ページの解説

《 指導方針 》

【指導方針 とは】

○指導方針…教育支援プランAの「特別な教育ニーズ」「本人・保護者の願い」を踏まえた、1年間の指導の方向性。

【指導方針 記入方法（県教育委員会より）】

○指導方針は、プランAの「特別な教育的ニーズ」「本人・保護者の願い」の内容に沿って、以下の順に記入する。

- ①: ニーズと困難さの実態
⇒現在…という状況である(…ができるようになってきた, …でつまずいている)
- ②: 配慮する点
⇒…に配慮しながら(…という 場を設定しながら)
- ③: ①②を踏まえた1年間の目標
⇒…できる(…の力を伸ばす, …が経験できる, … に自信がもてる)ように指導する。

※主語は教員 ※簡条書きでも文章体でもOK ※追記した場合、年月を全角で記入。字数制限あり。

【指導方針 記入例】

(例1) 現在、やるべきことがわからず活動に見通しがもてないと、飛び跳ねたり離席をしたりするなど、落ち着きがなくなる状況である。従って、活動を視覚的に提示したり、タイマーなどを用いて活動のはじめと終わりを示したりして、見通しがもてるようにする。また、落ち着いて活動をやり上げた時に称賛したりすることを配慮しながら、自分の気持ちを調整する力を伸ばすように指導する。

《 指導に結びつく実態 》

【指導に結びつく実態 ポイント】

○日々の指導に結びつくように、できる／できないだけでなく、「このような手立て・支援があれば、ここまでできる」「このような環境であれば、このような状態である」と、具体的な「支援方法」や「配慮点」が分かるように記入する。

【指導に結びつく実態共通項目】

○共通項目(【 】の項目)を記入する
(共通項目以外も、指導に結びつく実態は記入する。また、共通項目を記入する際には、【 】を合わせて記入をする。)

○共通項目:【着替え】【食事】【排泄】【苦手な状況】【大人と関わり】【集団生活】【学習の様子】【体の動き】

【手先の操作性】【コミュニケーションの理解】【…の表出】【興味関心】

※【健康上の配慮】については、必要に応じて記入する。

< 共通項目を記入する理由 >

- ①児童生徒の成長過程がより明確になる。
- ②有効な支援方法がより確実に引き継げる。
- ③全教員が迷いなく必要な項目を記入できる。
- ④各授業の指導に結びつく実態や支援方法がより記入できる。

【追加記入方法】

○年間通して、変化した実態を随時記入する。

特に、**前期終了時**と、**年度末**は、変化した実態を修正したり、追記したりして、後期や次年度に活用する。

※追記した場面、年月を全角で記入する。

【指導に結びつく実態 記入例】

【食事】配膳時に自助皿に取り分けることで、スプーンですくってこぼさずに食べることができる。

教育支援プランB（前期） 記入例

| 教科等 | 学期 | 学習課題・目標 | 指導内容・方法・手立て | 評価 | |
|-----------|----|--|--|---|---|
| 国語 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 平仮名を正しく読むことができる。 一文程度の短く簡単な文章で相手に伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み 平仮名の文字カードを用いて、正しい読み方の手本を示す。 質問への返答 伝える文章を考える時間と、教員と確認する時間を十分に保証する。 | <ul style="list-style-type: none"> 平仮名の学習では、指定された言葉を、文字カードを使用して作り、正しく読むことができた。 質問に答える学習では、質問内容を教員と確認しながら、「わたしは、〇〇が好きです」等、短く簡単な文章で伝えることができた。 | |
| 数学 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 10までの数量が理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 10までの数量 数字カードと共に、身近な具体物を用いて、数量を理解できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 数字を見て、7まで具体物を正しくとることができた。また「〇個ちょうだい」という口頭指示で5までとることができた。 | |
| 音楽 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 曲のリズムや速さに合わせて楽器の演奏をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の扱い 曲のリズムや速さに合わせた演奏の仕方 手本を示したり、教員と一緒に取り組んだりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の構造が気になってしまうことがあったが、言葉をかけると、曲のリズムや速さに合わせて、タンブリンやボンゴ、鈴、レインスティック、オーシャンドラムを鳴らすことができた。 | |
| 美術 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 素材や用具の特徴や扱い方を理解し、イメージを大切にしながら作品作りに取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 素材の特徴や用具の扱い方 正しい扱い方の手本を示したり、一緒に行ったりすることで素材の特徴や用具の扱い方がわかるようにする。 作品のイメージ 見本の提示の仕方を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 小麦粘土やマーブリングなど、新しい素材や技法に興味をもち、手本や見本を見てイメージをつくり、主体的に作品作りに取り組むことができた。使用する絵の具や糊の量を適切に出すことが難しかったが、作品作りには丁寧に取り組むことができた。 | |
| 保健体育 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ルールを守って運動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な活動におけるルール わかりやすい言葉かけや視覚的教具を使ったルールの提示。 | <ul style="list-style-type: none"> タグラグビーでは、教員の手本をよく見て、ボールを持って走ったり、トライしたり、走りながら友達の腰についたタグを取ったりと、ルールを守って運動することができた。 | |
| 日常生活の指導 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 提示された順序で着替えをし、指定の場所に荷物を片付けることができる。 手洗いの後、ハンカチで優しく手を拭くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 着替え、荷物整理の仕方 手順書を提示し、次に行う動作を指差しすることで、手順が分かるようにする。 手の拭き方 教員が手本を示して、手順を理解できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 教員の言葉かけが必要な時もあったが、手順書を自分で確認しながら、落ち着いて順番通りに着替えることができた。ポロシャツを自分でハンガーにかけてから、ベストをかける手伝いを依頼することができた。 手洗い後、教員の言葉かけを受けると、強く擦りすぎずに優しく手を拭くことができた。 | |
| 生活単元学習 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 社会に関心をもち、基本的な知識や技能を身に付けることができる。 パーソナルスペースについて知り、適切な距離を保って他の人と関わることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 社会生活のルールやマナー 関心をもてるように、日常生活に関連付けた内容を設定する。 パーソナルスペース 視覚的教材教具を用いたり、体験的な学習を行ったりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 校外行事の事前学習ではタブレット端末を用いて、意欲的に調べ学習に取り組むことができた。 教員とのロールプレイでは、パーソナルスペースについて知り、適切な距離を保って他の人と関わることができた。 | |
| 作業学習 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 【木工班】 作業手順を理解し、自分で取り組むことができる。 道具を安全に使用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 手順の理解と活動 手順が理解できるように、写真や手順書を提示する。 道具の安全な使用 安全に使用するためのポイントを端的に伝えながら、手本を示す。 | <ul style="list-style-type: none"> 「押し入れ用すのこ作り」では、繰り返し活動する中で、活動内容と手順を理解し、7月になると支援なく自分で取り組むことができた。 道具の使い方を理解して、安全に使用することができた。 | |
| 自立活動 | 全般 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 短い見通しをもって活動する。 教員に自分の気持ちや要求を伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動量への見通し 見通しがもてるようにカラータイマーを提示する。 カードを用いた意思表出 トイレに行く際には、トイレカードを提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> カラータイマーが鳴るまで活動に取り組み続けることができ、タイマーが鳴ったら自分で活動を終了させることができた。 トイレカードの掲示を繰り返し取り組むことで、自らトイレカードを指差しトイレに行きたいという意思を伝えることができた。 |
| | | 時間 | <ul style="list-style-type: none"> 短い見通しをもって活動する。 教員に自分の気持ちや要求を伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動の流れへの見通し スタートとゴールの位置を視覚的に示す。 具体物を用いた意思疎通 本人が好きな物と興味のないものを具体物で提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> 教員の促しでスタート位置に自ら立ち、ゴールしたら自ら席に戻ることができた。 提示された「ボール」と「えんぴつ」の具体物を見て、ボールに手を伸ばしていたが、回数を重ねることで要求を指差しで伝えることができた。 |
| 特別活動 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 集団でのルールや公共のマナーを守り、行事に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 集団でのルール・公共のマナー 見通しがもてるように、事前に活動内容や予定を視覚的に伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 宿泊学習では、日程表を見ながら見通しをもって参加することができた。また教員の言葉かけで事前学習の内容を振り返り、「時間を守る、順番を守る」等のルールを守って行動することができた。 | |
| 教科等 | 学期 | 学習活動 | 観点 | 評価 | |
| 総合的な探求の時間 | 前期 | <p>学校・地域で働く人を知る 学校間交流</p> | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の人と一緒に平塚公園や学校の周りのごみを拾うことができた。また、自らゴミ袋やトングを持って時間いっぱい活動することができた。 | |
| 総合所見 | 前期 | <p>新年度を迎え、担任や友達が替わる中でも、落ち着いて学校生活を送ることができました。体調に変化が見られた時期でもありましたが、毎日元気に登校し、教員や友達とのやりとりを楽しみながら、様々な授業や係活動、行事等に意欲的に取り組むことができました。気持ちを少し不安定になっても、教員の言葉かけを受けたり、視覚的な支援具を見たりする中で、状況を受け止めて、気持ちを切り替えることができるようになってきています。後期は中学部での学校生活のまとめとなります。引き続き安定した気持ちで過ごす力を伸ばしていきたいです。一つ一つの活動や、様々な行事に精一杯取り組む中で、「やりきった」という充実感や満足感を味わってほしいと思います。</p> | | | |

※紙面にのせる例として、サイズを調整しています。実際の「賢者」では、欄の高さ・幅や行間が異なります。

左ページの解説（前後期共通） その1

《 自立活動 》

【自立活動 ポイント】

- ◎目標は、障害による学習上または生活上の困難を改善克服するという視点から、本人が困っていることを明確にし、設定する。
- ◎指導は、時間における指導だけでなく、教育活動全般(教科、領域)を通して適切に行う。

【自立活動 記入方法】

◎学習課題／目標

- ・基本的に「教育活動全般」と「時間における指導」で目標は同じにする。
- ・「教育活動全般」と「時間における指導」で目標の文言が異なる場合、内容は関連付けなければならない。その際全般と時間の関連が分かるように目標を①・②で表記する。
- ・目標の数は二つまでとする。

◎指導内容／指導方法／手立て

目標に対応した具体的な内容を、〇~~~~と記す。

実施内容を全て記したり、自立活動の項目・区分名を記載したりするのではなく、目標に関して実施する内容を記す。活動そのものの名前ではなく、その活動を通して何を学習するかを記す。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 「活動そのものの名前」 | 「活動を通して何を学習するか」 |
| (例①) × コミュニケーション | ⇒ ○ カードを用いた意思表示の仕方 |
| (例②) × 身体の動き | ⇒ ○ 姿勢保持の仕方 |
- ・具体的な記入については記入例参照。

◎医療的ケアについて

- ・医療的ケアの児童生徒は、原則、自立活動の欄に医療的ケアの内容に関する目標を設定し、手立てや評価を記載する。その場合、自立活動の目標2点のうちの1点を医療的ケアに関する目標とする。

《 学習課題・目標 》

【学習課題・目標 記入方法】

- 「何が／どのように できるようになるのか」について、「～することができる」「～する」と、児童生徒の立場で記す。
- 課題に基づいた、具体的な目標を記入する。
特に、自立活動・日常生活の指導 など、毎日行う学習は、特別な教育的ニーズに応じた目標を設定する。
- 字数制限があるため、簡潔に記入する。(全角15文字×15行まで)

【学習課題・目標 設定のポイント】

★一つの文章内に、目標の一つを設定する。(伸ばしたい力を明確に示す)

- (例) △ 友達と適切に関わりながら、活動を最後までやり遂げることができる。(目標が二つある)
 - ①友達と適切に関わりながら活動することができる。(目標が二つの場合、文章も二つに分けます)
 - ②与えられた活動を最後までやり遂げることができる。

★(児童生徒の行動や態度で)評価できる目標を設定する。

- (例) △ 活動への関心・期待感をもつことができる。(「関心・期待感」は、評価困難)
 - 活動に自分から取り組むことができる。(「自分から取り組む」という行動で評価可能)
- (例) △ 活動に責任をもって行うことができる。(「責任」は、評価困難)
 - 活動に自分から最後まで取り組むことができる。(「自分から最後まで行う」という行動で評価可能)
- (例) △ 1～5までの数字に親しむ。(「親しむ」は、評価困難)
 - 1～5までの数字カードを見て、実物を正しい数取ることができる。(児童生徒の行動で評価可能)

★プランAの「特別な教育的ニーズ」やプランBの「指導方針」に応じた目標を設定する。

- (例) 「最後まで活動することが難しい」「活動に集中することが難しい」といった困難さがある場合
以下のような、本人の困難さに応じた目標を設定することが重要。
⇒「教員の言葉かけによる支援を受けて、〇〇に取り組むことができる」
⇒「〇〇の活動を、最後まで集中・継続して行うことができる」

*各教科等の学習指導要領に基づいて設定する。

また、日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導、作業学習といった合わせた指導は、元となる教科の学習指導要領に沿って目標を設定する。

教育支援プランB（後期） 記入例

| 教科等 | 学期 | 学習課題・目標 | 指導内容・方法・手立て | 評価 | |
|-----------|----|--|--|---|---|
| 国語 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 片仮名を正しく読むことができる。 体験したことなどについて、思い浮かべた事柄や思いなどを言葉で表現できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○片仮名の読み ・身近なものを取り上げて教材にする。 ○体験した事柄や感想の言語化 ・写真や学習で使用したカードを活用し言語化しやすくする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・片仮名で書かれた身近なものの名称を読めるようになった。 ・感想の言語化は「おもしろかった」「楽しかった」「頑張った」とパターンが決まっていたが、体験した内容については写真等を手がかりに言葉で表現することができた。 | |
| 数学 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・10までの数量を理解できる。 ・身の回りにある具体物の大きさに注目し、多少、長短を比べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○10までの数量 ・数字カードを見て具体物をとる学習、具体物を見て個数を答える学習を繰り返す。 ○量の「多少」「長短」 ・具体物を比較することができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・8までは、具体物をとることも、個数を答えることもできるようになった。9と10で間違えることがまだあるが、見直しすると直すことができる。 ・様々な具体物を比較することで「多い・少ない」「長い・短い」が分かり、正しく答えることができた。順番に具体物を並べることもできた。 | |
| 音楽 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な絵譜を見て、曲のリズムや速さに合わせて楽器の演奏をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○曲のリズムや速さに合わせた演奏の仕方 ・手本の提示と言葉かけを行う。 ○簡単な絵譜の見方 ・理解し易いリズム譜を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、簡単な絵譜を見ながらリズムや速度を確認したことで、楽器を鳴らすタイミングや速さを理解することができた。沖縄民謡の「パーラウク」や「くるみ割り人形」のベルをリズムやよく鳴らすことができた。 | |
| 美術 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい作品のイメージに合った素材や用具を選び、作品作りに取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○素材や用具の選択 ・素材や用具を数種類用意する。 ○作品のイメージ ・見本の提示の仕方を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペン立て制作では、マスキングテープや塗料、タイルなど様々な素材の中から、自分の作品のイメージに合ったものを選び、作ることができた。どの活動においても、手本や見本を見て「何を作るか」、「どのように活動するか」理解して取り組むことができた。 | |
| 保健体育 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・指定された時間内走り続けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○長距離走の走り方 ・少しずつ走る時間や距離が延びるように、個別目標を設定する。 ・走り続けることができるように教員が伴走し、励まし称賛を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・持久走の練習では、少しずつ走る時間や距離を伸ばしたことで、毎回意欲的に取り組むことができた。12月には、20分間止まらずに走り続けることができた。 | |
| 日常生活の指導 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・着替えや荷物整理を、自分から行うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○着替えや荷物整理を自分から行う習慣 ・手順書を用いて、手順が分かるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校後、自分から更衣室に向かい、手順書を確認して自分で着替え、衣類を整理できた。下校時も自分からボードを確認し、帰りの支度ができる場面が増えた。 | |
| 生活単元学習 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習に、友達と一緒に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○友達と活動する際の約束やルール ・ペアで協力したり、競争したりする内容を設定し、友達と関わることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習では、友達と一緒に新聞紙のスリッパや板敷段ボールの避難所スペースを製作することができた。修学旅行、持久走大会、社会体験学習の事前・事後学習では、友達と協力して係の仕事に取り組むとともに、友達の感想発表を興味深く見聞きすることができた。 | |
| 作業学習 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 【木工班】 ・機械の扱い方を理解し、自分で取り組むことができる。 ・製品販売に、主体的に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械の安全な扱い方 ・作業始めに安全な操作の仕方を確認する。 ○販売会への主体的な参加 ・主体的に取り組めるように環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドキーホルダーやマグネット作りでは、やすり掛けを担当し、電動サンダーの操作を覚え、自分で取り組むことができた。 ・販売会のレジ打ちでは、「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」の挨拶を自分から積極的に言い、製品を渡すことができた。 | |
| 自立活動 | 全般 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や順序を理解することができる。 ・サインやカードなどを用いて要求を伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○活動順序の見通し ・活動内容や順番の見通しがもてるように予定表を提示する。 ○サインやカードを用いたやりとりの仕方 ・気持ちが落ち着かなかった場面でもカードを提示し交渉する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・予定表を用いて、朝の支度に取り組んだ。手順が一つ終わる度に予定カードを外すことで、最後まで一人で取り組むことができた。 ・休憩場所の写真カードの提示を繰り返すことで、休憩したい時に自らカードを指差し休憩したいことを伝えることができた。 |
| | | 時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や順序を理解することができる。 ・サインやカードなどを用いて要求を伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○活動順序の見通し ・番号を貼ったボックスと予定表を提示する。 ○サインやカードを用いたやりとりの仕方 ・本人が好きなものと興味のないものを写真カードで提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3段に分かれたボックスの中にある教材を自ら取り出し、順番通りに取り組むことができた。 ・「ボール」や「えんぴつ」の写真を教員に渡したり指差しをしたりするなど、相手に要求を伝えることができた。 |
| 特別活動 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団でのルールや公共のマナーを守り、行事に参加することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○集団でのルール・公共のマナー ・見通しがもてるように、事前に活動内容や予定を視覚的に伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行では、日程表を見ながら見通しをもって参加することができた。また教員の言葉かけで事前学習の内容を振り返り、「時間を守る、順番を守る」等のルールを守って行動することができた。 | |
| 教科等 | 学期 | 学習活動 | 観点 | 評価 | |
| 総合的な探求の時間 | 後期 | 高等部の作業・余暇見学 | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・高等部の各作業班の見学では、自ら製品に触れるなどと興味深く見学できた。高等部の余暇活動の見学では、来年度の自分の入りたい余暇班を言葉で伝えることができた。 | |
| 総合所見 | 後期 | <p>穏やかに過ごせることが日常になり、様々なことに落ち着いて取り組むことができるようになりました。登校から更衣室への移動や着替え、トイレなど、一人で自分から行動できる場面が増え、給食の食の幅も広がりました。また、いろいろな教員に自分から挨拶をしたり、友達に近寄って声をかけたりと、関わりに広がりがみられるようになりました。初めての発作時は心配しましたが、大きく体調を崩すこともなく、毎日笑顔で様々な活動に取り組むことができました。4月からはいよいよ高校生です。新しい生活に1日も早く慣れ、穏やかな気持ちで充実した日々を送り、たくさんの成長を積み重ねていけるよう、応援しています。ご卒業おめでとうございます。</p> | | | |

※紙面にのせる例としてサイズを調整しています。実際の「賢者」では、欄の高さ・幅・行間が異なります。

左ページの解説（前後期共通） その2

《 指導内容・手立て 》

【指導内容 →○で表記】

目標に対応した内容を、○~~~~~ と記す。
実施内容を全て記すのではなく、目標に関して実施する内容を記す。
活動そのものの名前ではなく、その活動を通して何を学習するかを記す。

「活動そのものの名前」 「活動を通して何を学習するか」
(例①) × 荷物の整理・着替え ⇒ ○ 荷物の整理・着替えの仕方
(例②) × 長距離走 ⇒ ○ 長距離走の走り方

【手立て →・で表記】

目標ごとに、・~~~~~ と記す。
字数制限があるため、簡潔に記入する。(全角15文字×15行まで)

【指導方法/手立て ポイント】

指導方法/手立ては、目標の達成のために、教員が行う具体的な行為を記す。
また、「○○が 分かる ように○○をする」「○○を 自分から(主体的に)できるように○○する」のように、
子供の「分かる(理解促進)」「やりたい(動機の上昇)」を促す手立てを行うと、目標達成に大きく前進する。
実際に記載する際は、各目標や活動内容に沿って具体的に記すと、分かりやすい。

【具体例】

《子供の「分かる(理解)」を導く手立て》

- ① 活動内容や手順が理解できるように、活動を繰り返し行う。
- ② 活動内容や手順が理解できるように、視覚的な支援具を使用する。
- ③ 活動内容や手順が理解できるように、端的で分かり易い言葉かけを行う。
- ④ 活動内容や手順が理解できるように、ゆっくりと手本を示す。
- ⑤ 最後まで集中できるように、活動の終わりを明確に提示する。

《子供の「やる気(動機)」を導く手立て》

- ① 主体的に取り組めるように、成功時に大いに称賛する。
- ② 主体的に取り組めるように、興味関心のある活動を設定する。
- ③ 主体的に取り組めるように、自分で選び、自分で決定する場面を設定する。
- ④ 主体的に取り組めるように、教員や友達と競争する場面を設定する。
- ⑤ 主体的に取り組めるように、自分で考えて行動するまでの時間を保証する。

《 評価 》

【評価 記入方法】

- 目標の内容について評価する。
目標以外の、成長した部分や頑張った活動等は、所見欄、連絡帳、通信、個別面談等で、保護者に伝える。
- 目標に対して、どのような手立て(支援)により、どの程度(回数)できたか、現在の到達点分かるように記す。
- **敬体(○○でした)でなく、常体(○○だった)で記入。※所見は、敬体で記入。**
- 字数制限があるため、簡潔に記入する。(全角20文字×15行まで)

※「~して楽しそうだった。」「~に参加した。」など、状態や事実だけの表記は避ける。

※「~だと思います。」など、教員の感想や思いは、所見欄に記入する。

【評価 記入例】

目標: 正しいリズムで太鼓の演奏に取り組むことができる。

- 評価: △ 太鼓の演奏に、楽しく意欲的に取り組むことができた。(目標を評価していない)
- 評価: △ 教員の言葉かけを受けて、友達と一緒に楽器の演奏に取り組むことができた。(目標を評価していない)
- 評価: ○ 太鼓を楽譜のとおり正しいリズムで演奏することができた。

目標: 見本のとおり正確に作ることができる。

- 評価: △ 仲間と一緒に協力して、作業に取り組むことができた。(目標を評価していない)
- 評価: △ 時間内、自分の役割に集中して取り組むことができた。(目標を評価していない)
- 評価: ○ 見本をよく見て、見本と同じ形に作ることができた。

